



至誠

勝田第三中学校 学校だより 第12号
令和7年7月18日(金)発行
文責:校長 川上徹行



勝田三中HP



夏休みを迎えるにあたって、年度初めからの取組を振り返りました。

今年度がスタートして、早くも3か月が経ちました。これまでの授業日数は72日となり、年間のおよそ3分の1を終えたことになります。学年や学級、部活動などで直面する課題や問題の解決に取り組む中で、生徒一人ひとりが努力を重ね、確かな成長を見せています。変化の激しい、複雑な社会を生きていくこれからの時代にあって、生徒たちには、こうした日々の経験を通して、心豊かに育ってほしいと願っています。生徒たちの健やかな成長のために、今後も保護者並びに関係者の皆様の応援やサポートを、よろしくお願いいたします。(以下は本校代表生徒の活躍の状況です。)

- ・市少年の主張大会…発表者 K(3年)「自分らしい生き方で」紹介者 S(3年)
- ・市 Presentation Forum 2025…参加者 I、S、A、S、S(全員3年)

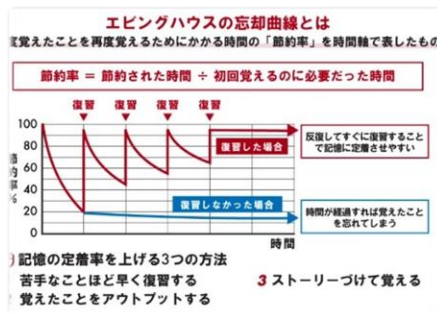
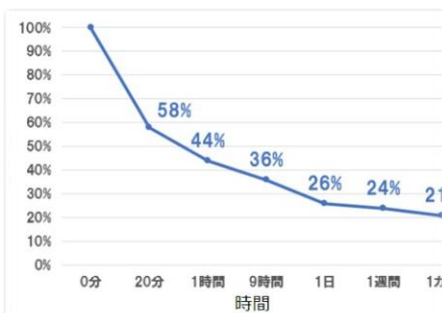
今後の県大会等の本校生徒の活躍にご期待ください。(7/19～県総体水泳@笠松運動公園、柔道@県武道館、ソフトテニス@神栖海浜テニスコート、ソフトボール@那珂総合運動公園、卓球@下館総合体育館、27…中央地区吹奏楽コンクール@市文化会館) ※ 詳細は本校HP↓をクリックしてください。

「<https://hitachinaka.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=0820011&frame=frm5ecf3c0f1c094>」

【本校生徒たちの活躍の様子】



本日3年生を対象に、AIドリル「Monoxer (モノグサ)」のガイダンスを行いました。このAIアプリは、記憶の定着に着目し、短期記憶から長期記憶への移行をサポートする、個別最適化された学習ツールです。生徒一人ひとりの習熟状況に応じて、復習の頻度やタイミング、出題内容をAIが自動で調整し、知識・技能の定着を図ります。この学習アプローチの背景には、エビングハウスの「忘却曲線」の研究があります。これは、人がどれくらいのスピードで記憶を忘れていくかを示したもので、例として、意味のないアルファベットを記憶させた場合、20分後には約42%を忘れてしまうという実験結果が示されています(左図参照)。さらに、2013年にカナダのウォータールー大学が行った研究では、次の2点が明らかにされました。① 復習をしな



ければ、1ヵ月後にはほとんどの記憶が失われる。② 24時間以内に復習すれば、わずか10分間の復習で記憶がほぼ100%に戻る(右図参照)。こうした研究からも分かるように、「いつ・どのように復習するか」が、学びの成果を大きく左右します。モノグサAIドリルは、こうした科学的根拠に基づき、個別に最適な「反復の方法」を提案し、反復回数・出題の難易度・復習のタイミングを一人ひとりに合わせて調整します。このツールも積極的に活用しながら、生徒一人ひとりが知識や技能を長期的に定着できるよう支援してまいります。(2,1年生は夏休み明けの9/1にガイダンスを実施し、本格的に運用をしていきます。) 詳しくは➡を [Monoxer・解いて憶える記憶アプリ](#)

ければ、1ヵ月後にはほとんどの記憶が失われる。② 24時間以内に復習すれば、わずか10分間の復習で記憶がほぼ100%に戻る(右図参照)。こうした研究からも分かるように、「いつ・どのように復習するか」が、学びの成果を大きく左右します。モノグサAIドリルは、こうした科学的根拠に基づき、個別に最適な「反復の方法」を提案し、反復回数・出題の難易度・復習のタイミングを一人ひとりに合わせて調整します。このツールも積極的に活用しながら、生徒一人ひとりが知識や技能を長期的に定着できるよう支援してまいります。(2,1年生は夏休み明けの9/1にガイダンスを実施し、本格的に運用をしていきます。) 詳しくは➡を [Monoxer・解いて憶える記憶アプリ](#)